

## 原爆を体験した方のお話をお聞きして

豊田中学校三学年 関蒼眞

### お話を聞く前

8月5日。平和学習二日目。僕たちは、「ヒロシマ青少年平和の集い」に参加しました。その会では、小学5年生であった11歳の時に被爆した瀬越睦彦さんのお話をお聞きしました。そこで僕は、ただ過去に起きた出来事を学ぶよりも、実際にそれを体験した人のお話を直に聞くほうが、たくさんを感じ取ることができ、たくさんを学べるのだと実感しました。

### お話の内容

もともと瀬越さんは、東京に住んでいました。しかしアメリカ軍の飛行機、B-25による東京大空襲により、祖母の住んでいる広島へと、母親、4歳の弟、母のおなかの中にいる赤ちゃん、縁故疎開することになりました。その時に父親が「お母さんのことを頼んだぞ」と、自分の手を力強く手を握った感触を今でも覚えているそうです。疎開先の広島の学校では当時東京から疎開してきた瀬越さんの東京弁広島の子供たちには、生意気に聞こえ、いじめられ、ひどいときには下駄で殴られた時もあり、そんなつらいことも時もあったそうです。庭に近所の方と防空壕を掘り、警報がなった時には隠れたそうです。そして1945年8月5日、広島に原爆が落とされました。その時瀬越さんは母親からご飯のお茶碗をもらおうとしたとき、辺りが真っ白になりました。そのまぶしさは、母親が蠟人形になったと見間違えるほどだったといいます。爆風により一瞬で家が崩れました。母親は、生後まだ半年ほどの赤ちゃんの上におおいかぶさり背中を負傷しました。道にはひどい火傷を負った人たちが、「熱い」、「水をくれ」など言っていたそうです。

### 感想

瀬越さんのお話はとても具体的で、その様子からは、84歳になっても憶えているほどとても衝撃的な出来事だったということが分かった。この悲惨な歴史を思い出したくなく、語りたがらない人が多くいる中、瀬越さんはこの歴史を新しい世代に伝えるためにお話をしてくださり、原爆の様子を間近に感じ取ることができた。



# 広島へ行って

豊田中学校 3年 稲田藍

私は、広島へ行き「平和」に対する考えが変わりました。まず、翠町中学校の執行部の皆さんと意見交換をしました。翠町中学校では千羽鶴を、全校生徒、PTA、そして各家庭でも作成していました。それは、とてもたくさんの鶴でした。たくさん作れるのは、翠町中の生徒も保護者も広島市の皆さんも強く平和を願っているからこそだと、感じました。また、翠町中学校の学校行事として校内慰霊祭を行っていたり、オバマプロジェクトに参加していたりと、平和活動にとっても積極的でした。私は、翠町中学校の皆さんの発表を聞いて「まだ子供だから知らない、できない」は、ただの言い訳で「子供でも知ろうとする、やってみる、探す」と、いうことが大切だと思いました。

次に「青少年の集い」に参加しました。まず原爆被害の概要説明を聞き、被爆経験者瀬越睦彦さんのお話を聞きました。「朝食の時、母からお皿を受け取ろうとした次の瞬間…私の前にいた母親が真っ白に光り、人形のように見えました。」当たり前の日常が一瞬にして消えてしまったのです。お話の中には耳をふさぎたくくなるような内容もありました。私は、瀬越さんのお話をお聞して、「原爆を落とせば人は死ぬ。」そんなことは誰もが知っているはずなのに、誰が何をしたくて何のために原爆を落としたのかと、たくさんの疑問が出てきました。

また、私は初めて原爆が落ちた後に台風が来たことを知りました。もし私が73年前に広島にいたら原爆が落ちただけでも精神的なダメージが大きいはずなのに、そこへ台風が来たら、もう立ち直れないだろうなと思いました。お話をお聞きした後、全国から参加した人を27のグループに分けて「平和とは何か」を各グループごと考えました。最初は1人で知らない人と話し合うことができるかとても不安でした。しかし、私が割り振られたグループへ行くと「どこから来たの？」と、とても笑顔で話しかけてくれました。私は、すごく嬉しくて安心しました。そして、「平和とは何か」を考えた時に私は「これだ。」と思いました。私は「上手く話せなかつたらどうしよう。」と自分のことばかりを考えていました。しかし、グループの人は私が緊張していると考えて優しく笑顔で話しかけてくれました。

このように、世界中のみんなが相手の気持ちを考えて接したり、行動を起こしたりすれば、どんな人でも暮らしやすい世界になると思います。また、どんな時が平和と言えるかを考えるとグループのみんなから「寝ている時」「散歩している時」「友達と遊んでいる時」などが出ました。それはどれも当たり前のことだと思いました。当たり前のことが当たり前でできている時こそが「平和」だと考えました。

更に「どのように平和を伝えていくか」を考えました。私達の班からは、「歌を作る」「チャット形小説アプリで、被爆経験者の証言をもとに小説を書く」などの意見が出ました。「平和」が大切なことは誰もが知っていることだけど、平和とは何なのか、どうすれば平和になるのかをもっと多くの人が考え、平和について深く具体的な考えを持つ必要があると思いました。

その思いをもった上で、平和記念館へ行きました。私はちゃんと写真が見れないのではないかと不安がありました。記念館に入ると原爆投下後の広島市の景色が広がっていました。鉄製の建て物が数個残っているだけの無残なものでした。原子爆弾が落とされた時、熱線によって大火傷を負った人、爆風によって吹き飛ばされたり、ガラスが割れ体に突き刺さった人、川の水や雨に放射線物質が入っているとは知らず飲んでしまう人など色々な形で亡くなられた方がいました。そして今もなお、原爆が投下された時の放射能によって白血病やがんなどを患い苦しんでいる人がいることも知りました。記念館に展示されていた写真や遺品は、当時の悲惨さを物語っていました。

私は、「原爆が落ちてたくさんの人が亡くなった」ということまでしか勉強してきませんでした。しかし、今回初めて原爆について詳しく知り、そして、今までは「平和は大切だ」「平和な世界になってほしい」と、願って

いるだけの思いが、このことを「伝えたい」に変わりました。被爆者の平均年齢が 82 歳を超えるなかで、私達は今回学んだことを私達らしく伝えていきたいと思います。そして、I think I say I do という言葉のように思いついたことを提案し、行動に移していきたいと思います。今回広島へ行ってたくさんのことを学び、感じる事ができて良かったです。



# 広島 原子爆弾

豊田中学校3年 森山 友稀

私は教科書でしか原子爆弾の写真や説明を聞いた事しかありません。なので原子爆弾のことを、「ただ爆弾が落ちた衝撃で人が沢山死んでしまっただけ」だと思っていました。しかし、今回広島に行かせていただき、そうではないことを知りました。

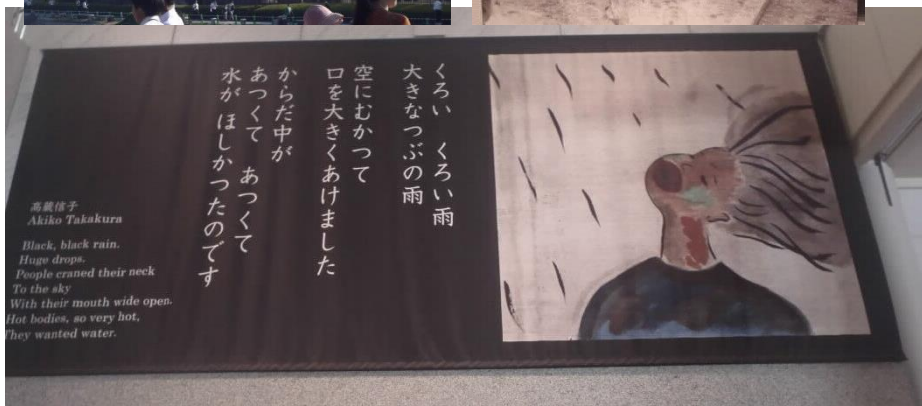
それは、原子爆弾が投下された時、怪我や、火傷だけで人々が亡くなっただけではなく、爆弾が落ちてきたとき物凄い爆風や、放射能、熱線が人々を襲ったということです。爆風は、色々な物を破壊し、熱線は、家の窓ガラスを溶けさせ、7700度のガラスの破片となって、人々に、火傷を負わせました。また、放射能は沢山浴びてしまうと人の身体の内部組織を壊し、後遺症が残る病気として人々を苦しめました。もちろん、爆弾が投下されたことで怪我をした人、即死だった人は沢山いると思います。

他にも原爆で周りが水ない状況に陥り、人々は水を求めました。それが原因で、放射能が溶けた川の水を大勢の人が飲み、後遺症や死をもたらしました。また、火傷を負った人々は、川の水だけでは足りず、上を向き雨さえも飲みました。ですが、その雨にも放射能が含まれており、沢山の人が亡くなってしまいました。私もその場にいたら、空から水を降ってきた汚い水も死ぬなんて思いもせず飲んでしまうと思います。それに、爆風で身体が傷だらけ、熱線で火傷だらけの状態ですぐ水が欲しくないわけがありません。

このようなまだまだ人々に知られていない話が沢山ありました。その話に触れたことで、このような戦争は絶対何があってもやってはいけないと思いました。

日本中そして世界に戦争があってはならないと伝えるため、私はどのように伝えたら皆さんに伝わるか考えてみました。

まず、授業そして動画と直接お話しを聞きに行くことです。今戦争を伝えてくださってる人もいつかは亡くなってしまいます。その為それを動画にすることで、いつまでも残すことが出来ます。しかし、動画では絶対に伝えられない事があります。それは語り手のその時の雰囲気や、感情です。雰囲気や感情はその場でないと絶対に分かりません。今回私は直接聞きに行くことで原子爆弾のことはもちろん分かりましたが、それに加え辛さや、嬉しさなどが直接伝わってきました。それをまた今度私自身が直接聞きに行く事でしか分からない緊張感や、緊迫感などを表現して伝えていきたいと思いました。



# 平和の集いに参加して

豊田中学校 3年 平田ちひろ

私達は広島派遣の2日目に、「ヒロシマ青少年 平和の集い」に参加させていただきました。そこでは、被爆された方のお話を聞いたり、他県の同年代の人と平和について、ディスカッションをしたりしました。

被爆された方のお話では、11歳の時被爆した、瀬越睦彦さんのお話をお聞きしました。そのお話で心に残ったことがあります。それは、原爆での被害です。火傷により、皮膚がただれてしまったり、放射能の黒い雨が降ったりなど、きっと思い出したくないことを話してくださいました。また、瀬越さんは、原爆を落としたアメリカへの憎しみはないと話していました。私だったら、アメリカを許せないと思うので、そう考えられることが普通ならできないと思うので、すごいと思いました。そして、『I think I say I do』平和な世界にしたいと思うのは簡単だけど、それを言い、行動することが大切だと話してくださいました。



平和についてのディスカッションでは、平和とは？平和をどのように伝えるか？の2つのことを話し合いました。まず、平和とはどんなものか。平和とは、今のあたり前の生活があたり前であること、笑顔で生活できること、武装しないで生活できることだと思います。そして、平和をどう伝えるかについて、私達の班では、同世代の人達にどうやって伝えるかを話し合いました。しかし、伝える前に戦争や平和に興味を持ってもらう必要があります。そのためには、SNSを使う、1人1人が戦争について調べて発表するなどの工夫をするという意見や、私達が学校で行っている平和学習に真剣に取り組むこ

とが一番重要だという意見が出ました。

今回、広島へ行って戦争や平和について、たくさん考えることができました。被爆された方のお話を実際に聞くことは、長野県にいたら絶対にできないことです。映像ではなく、実際に見たり、聞いたりすることでわかることがたくさんあり、本当に貴重なお話だったと思います。また自分と同年代の人達とディスカッションをすることで、戦争を体験していないけれど、戦争や平和についてどんな考えを持っているのか、みんなの考えを共有することができました。自分と似たような考えを持っていたり、自分では全然思いつかないような考えがあったり、様々な考えを知ることができたし、自分と同世代の人が戦争や平和についてとてもしっかりとした考えを持っていて、たくさんの刺激をもらうことができました。今回広島へ行き、みんなが同じ考えを持っていることを改めて実感しました。それは、「原爆の過ちを繰り返さない、平和な世の中にする」これはきっと世界中の人が思っていることだと思います。しかし、現在もどこかで紛争は起こっています。また、核が無くならないため、もしかしたらまたこの過ちが繰り返されてしまうかもしれません。この現状を解決するためには、被爆された方のお話を聞き、平和について考えた私達が身近な人から平和の大切さを伝えていくことが必要だと思います。私達が伝えただけでは何も変わらないかもしれません。でも、これが、平和を作るために私たちができることだと思います。